



Le Chainon

— 花と紅茶がつなが、小さな環の物語

2025年3月、上大岡駅から徒歩で2分。その路地に、ふわりと花の香りと紅茶の湯気が漂う場所が誕生しました。「紅茶を楽しむお花屋さんLe Chainon（ルシェノン）」。

オーナーさんは、もともとマルナカでリノベーションをされたご自宅で、フラワーアレンジメントやパーソナルカラーを軸にイメージコンサルティングをされていた方。

静かに育ててきた夢を、ある日そっと現実へと動かしたのは、駅近くに佇む“庭付きの平屋古民家”との出会いでした。

雑草が生い茂っていた広い庭は、ご友人たちの手も借りながら、今ではまるでイングリッシュガーデンのような表情に。純和風だった室内は、上質でエレガントなサロンへと生まれ変わり、花と色、そして紅茶がやさしく混ざり合う空間になりました。

ここでは、ワークショップやフラワーアレンジメントのレッスンも開催され、訪れた人が自然と肩の力を抜き、自分の“好き”にそっと触れられる時間が流れています。

Le Chainonのコンセプトは、「花と色は心を癒し、食は身体を癒す」。人との繋がり、環(チェノン=フランス語で“輪環”)を大切にしながら、温かくて、ほっこりとしたひとときを届けられる場所です。

紅茶の香りに包まれながら、花の色彩に心をほどく。そんな小さな癒しの時間を、あなたも覗いてみませんか。



Instagram店舗情報

Topics

インテリア・デザイン 好きに

— 暮らしの感性を磨く展示

■ DESIGNART TOKYO 2026

街全体がデザインのショーケースになる10日間 / 2026.10.30～11.8
銀座・有楽町を中心に、インテリア・アート・ファッションが交差する都市型フェス。今年のテーマは「Hibiki」。街を歩きながら感性が揺れる体験を。

■ alter. 2026, Tokyo

プロダクトデザインの“新しい価値”を探る展覧会（日本橋三井ホール）
2026.10.29～11.1
トップクリエイターが選出したプロジェクトが並ぶ、デザイン好き必見の企画。インテリアの“これから”を感じる4日間。

建築 好きに

— 構造・空間・思想に触れる展示

■ 方丈記に学ぶー生きるを編み直す

小さな建築 (21_21 DESIGN SIGHT)
2026.8.28～2027.1.11
建築を「生きる術」として捉え直す企画展。秋の静けさと相性抜群。

■ ワン・シュウ+ルー・ウェンユー展

ー建築すなわち庭 (ワタリウム美術館)
2026.12.4～2027.3.28
“建築=庭”という思想を体感できる、冬にじっくり味わいたい展示。



● 吉田璋也のデザインー新作民藝運動がめざした未来

パナソニック汐留美術館 / 2026.10.15～2026.12.20

★こちらのチケットをご希望の方は、お声掛けください。



アート 好きに

— 秋冬の“見逃せない”大型展

■ デュエットーアジア・コンテンポラリー

(東京都写真美術館)
2026.9.30～2027.1.17
アジアのコンテンポラリー写真を深く味わえる企画。

■ ニコライ・アストルップー創造する庭

(東京ステーションギャラリー)
2026.11.21～2027.1.31
北欧の自然と色彩を描いた画家アストルップの世界。

ご相談いただいた方に『リノベーション実例集』差し上げます。

発行：株式会社マルナカホーム リノベーション事業部
〒223-0057 横浜市港北区新羽町 896
free / 0120 28 45 28

© 2026 Marunaka Home Inc.



お問い合わせ



Home page



Instagram works



YouTube

本誌は、これまでご挨拶をさせていただいた皆さまとのお縁を大切にお届けしています。

Fika

住まいと暮らしの小さなワクワクを私たちの視点でそっとお届けします



marunaka home
no'clock

暮らしの余白が、心を整える。

さまざまな情報に囲まれ、目まぐるしく変化する毎日。
そんな日常とは少し異なるシーンを感じることはありませんか。
暮らしの中には、いつもの時間を少しだけゆるめるヒントがあるのかもしれない。



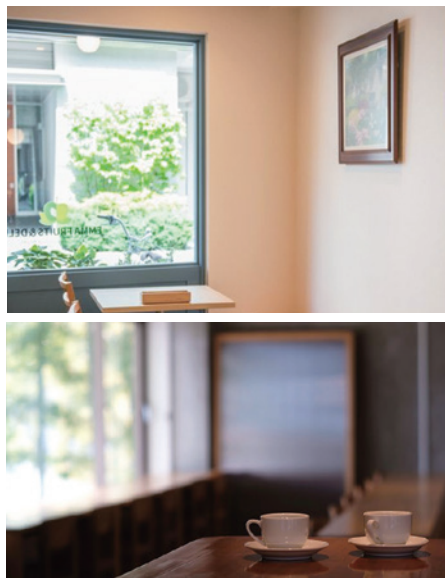
格子の棚 — 抜け感のある魅せる収納 —

背板のないオープンタイプや、縦・横の格子デザインは、空間に抜け感をつくり、圧迫感をやわらげます。
カップやグラス、文庫本、雑貨、観葉植物などを飾れば、お気に入りのコレクションを楽しむ場所に。
ショップのディスプレイのような、洗練された雰囲気が生まれます。今日も美味しいコーヒーをいただきながら。



窓辺のカウンター — 時間がほどける空間をつくる —

窓際のカウンターは、太陽の光を身近に感じられる特別な場所です。表情を変える空や季節のうつろいを眺めながら、
ゆったりと流れる時間を味わう。光と風を豊かに招き入れる窓辺には、暮らしの中の小さな贅沢が広がっています。
掃き出しの窓側にもカフェカウンターを付けてみました。



床の段差 — 小上がりを特別なスペースに —

お休みの日には、ベッドで二度寝するのが至福の時間。
小上がりなら、通路の限られた空間にも眠る場所をつくれます。床上げ部分の下は収納に。照明にもこだわって、
眠る前のゆったりとした時間も、心地よく。



整う=心の余白 # 井桁格子の棚
掃き出し窓の前にもカウンター
小上がりのベッド # 二度寝 # 星空を見上げる

☕ Fika Column

星空の時間

遥かな光にふれる、静かなひととき。

夜空を見上げるとき、私たちはただ光を見ているのではなく、時間の層を見えています。星の光は、秒速約30万 km で地球へ届きますが、星々はあまりにも遠いため、いま目にしている光は数千年～数万年前に放たれたものです。すでに寿命を終え、消滅してしまった星の“最後の光”が、静かに私たちの瞳へ届いていることもあります。星空とは、過去が現在へ届く、宇宙ならではの現象なのです。

横浜の街では、夜空は人工の光でほんのり明るく、星を探すのがむずかしい。これは光害（ひかりがい）と呼ばれ、街灯やビルの照明が夜空を白くしてしまうため。けれど、ほんの少し野山へ向かうだけで、空は急に深くなり、肉眼で見える星の数が一気に増える。その変化は、まるで世界の解像度が上がるようで、何度体験しても胸が震えます。

世界には、星空を守るために町全体が協力している場所があります。ニュージーランド南島のテカポ湖周辺は、世界初の「星空の世界遺産」登録を目指す地域。街灯には光害の少ないナトリウムランプを採用し、建物の照度や向きまで調整して、夜空の暗さを守り続けています。暗さを守るという選択が、美しさを守ることにつながる。その思想は、星空そのもののように静かで力強い。星空は、ただの風景ではなく、時間の感覚をやさしくほどく存在なのかもしれません。

